

2023.01.13版

患者-医療者間における 診療ガイドラインの活用

教育プログラム検討会
佐々木八十子

Minds Copyright (C)2022 Minds

1

1

2023.01.13

本項目の学習目標

本項目受講によって

1. 目指す「よい医療」のかたちを説明できる
2. 患者-医療者間の診療ガイドライン活用を促進・阻害する要因を列挙できる
3. 推奨の適切な遵守を推進するために必要な患者への支援と医療者の姿勢を述べられる

Minds Copyright (C)2022 Minds

2

2

2023.01.13

診療ガイドライン活用の課題

- 診療ガイドラインとは、

「健康に関する重要な課題について、医療利用者と提供者の意思決定(=協働意思決定)を支援するために、システムティックレビューによりエビデンス総体を評価し、益と害のバランスを勘案して、最適と考えられる推奨を提示する」文書

Minds診療ガイドライン作成マニュアル編集委員会. Minds診療ガイドライン作成マニュアル2020 ver.3.0. 公益財団法人日本医療機能評価機構EBM医療情報部. 2021. P3.

- しかし、診療ガイドラインの順守は義務ではない
- 患者と医療者の診療ガイドラインに対する認知と態度が、診療ガイドラインの活用を左右する大きな要因となる

Minds Copyright (C)2022 Minds

3

3

2023.01.13

協働意思決定が求められる理由

ザルツブルグ宣言(2010年12月)より

- 患者が受けるケアの大半は、個々の医療者の能力と習熟にかかっており、必ずしも最善の医療実践で広く認められた水準や、治療に対する患者の意向にはよらない。
- 医療者は、患者がどこまで自分の健康問題について理解し参加したいかを認識するのが遅い。患者は選択肢を知り、自分の意向が考慮される意思決定をしたい。
- 多くの患者や家族は、医療の意思決定に積極的に参加するのが難しいと考えている。自信がなくて医療者に質問できない人もいる。健康とその決定要素についてごく限られた知識しかなく、明瞭で信頼できる、わかりやすい情報をどこで見つけられるのかも知らない。

Seminar, S. G. (2011). Salzburg statement on shared decision making. *Bmj*, 342.

Minds Copyright (C)2022 Minds

4

4

目指す「よい医療」のかたち（協働意思決定）

- 患者と医療者が、対話的なパートナーシップのもとで、
- 取りうるすべての選択肢を共有し、
- 質の高い科学的根拠に基づく、選択肢の長所・短所を共有し、
- 患者の希望や意思と、医療者の意向や見立てを提示し合い、
- 患者・医療者の双方が納得できる、個別的な意思決定を、
- いつでも、どこでも、協働的に行うこと

協働意思決定を円滑にするために
診療ガイドラインを活用する

5

診療ガイドライン活用の促進

2023.01.13

- 一般向けに分かりやすく解説したガイドの作成
- Mindストップページ>診療ガイドラインとは>ガイドライン解説
https://minds.jcqh.or.jp/s/public_infomaiton_commentary



Minds やさしい解説
図解
高血圧
(2012年11月21日 第1版公開)

「やさしい解説」では、病気について、一般の方向けにやさしく解説しています。どんな病気なのか、どんな人がかかりやすいのか、病気に関係する臓器のしくみやはたらき、症状や検査の方法、治療の種類、日常生活上の留意点などをわかりやすい言葉と図を用いて解説しています。

この「やさしい解説」は、Mindsが作成しており、専門医による監修を受けています。

実際の診療にあたっては、主治医をはじめとする医療者に相談されることをお勧めします。

6

2023.01.13

• 年齢に合わせた説明文



小児消化器内視鏡ガイドライン 2017. [書影] 日本小児栄養消化器肝臓学会編. 診断と治療社, 東京, 2017.

Minds Copyright (C)2022 Minds

幼児～小学校低学年を対象とした上部消化管内視鏡検査の説明文

おなかを カメラで しらべてみよう!

びょういんで、おなかのなかにある たべものごとおとるトンネルをカメラで しらべます。

→ どうやって しらべるのかな?

このカメラは ひものようにグニャグニャとまがって みんなの おなかのトンネルを そーとすすんで しらべることが できるよ。

おうちから
おなかまで、
こんなふうに
たべものトンネルが
あるよ




えんぴつくらいのおおきさのカメラをおうちからいれて、おなかのなかにびょうきがないか みるよ。カメラであるとき、おいしゃさんの「モシモン」だけではわからないことが いろいろ わかるんだよ。「おなかがいいい」とか「オエっとなっちゃう」とか「きもちがわるい」とか。なんでかな、って わかるかもしれない。

どれが えんぴつ?
どれが カメラ?

→ ほく/わたしは なにをするのかな?

しらべるまえには、「てんでき」を てに つけます。カメラであるときに、いたくないように おくすりを つかいます。ねむくなって、いたいのが こわいのも なくしてくれるとくべつなおくすりだよ。

小児消化器内視鏡ガイドライン 2017, P. 88, 日本小児栄養消化器肝臓学会編. 診断と治療社, 東京, 2017.

7

2023.01.13

患者・市民の参画と価値観や希望の反映

- 診療ガイドラインの**推奨はあくまで一般論**であり、当該疾患の患者の約60～95%に適用できるものとされている
- 推奨の決定過程に**患者・市民の価値観や希望、好み**の多様性が反映されることで、臨床現場で医療者・患者双方の意思決定にも役立つ
- 診療ガイドラインが**一般論にとどまらず、個別性や多様性を考慮したより信頼性の高い情報源**となることで活用が促進される

8

Minds Copyright (C)2022 Minds

8

2023.01.13

推奨の適切な遵守の推進

- 医師・専門家
 - 医師個人の姿勢(知識のアップデート、価値観)、
 - 職場環境(多忙、コミュニケーション、組織文化等)、
 - 学会等で育まれる規範等、
活用を阻む多面的要因を十分考慮して、改善策を検討する
 - Quality indicator(QI)解析結果を院内医師全体と幅広く共有する
- 患者・市民の支援
 - 診療ガイドライン普及支援、意思決定支援、情報支援、情報の理解の支援を心がける
 - 内容を理解できるよう可能な限り教育機会を積極的に利用し、信頼できる人や団体からの情報収集を図る

現場で実践的に活用することは複雑なプロセス
すべての重要関係者が意識的に活用状況のフィードバックを受け、
横断的に連携することが重要

『診療ガイドラインの活用ガイド 2018年度MINDS-QIP共同研究・調査報告』p23より引用改変
https://minds.jcqh.or.jp/docs/implementation/qip/pdf/MindsQIP_H30_Collection.pdf

Minds Copyright (C)2022 Minds

9

9

2023.01.13

普及・活用・効果の評価

- 普及・活用の評価
 - アンケート
 - 診療行為の該当患者に対する実施率
- 診療ガイドライン導入の評価
 - 患者アウトカムの改善
 - プロセスの質指標(QI)
 - 推奨に基づいて診療が行われる割合
 - 代理指標の改善
 - 患者と医療者の満足度、等
- 内容や作成方法の評価
 - 外部評価・パブリックコメント

診療ガイドライン
改訂に向けた
重要な情報



Minds Copyright (C)2022 Minds

10

10

本項目のまとめ

- 患者と医療者の診療ガイドラインに対する認知と態度は、診療ガイドラインの活用を左右する。
- 患者と医療者の協働意思決定を円滑にするためのツールとして、診療ガイドラインや一般向けに分かりやすく解説したガイドを活用する。
- 患者・市民参画による推奨作成、普及や効果の評価、推奨内容の見直し、といった一連のサイクルをまわすことが、広い意味で患者-医療者間の診療ガイドラインの活用になる。

2022年度 診療ガイドライン 学習教材 (導入教材)

■編集：公益財団法人日本医療機能評価機構 EBM医療情報部 教育プログラム検討会

■監修（50音順）：

奥村晃子 (日本医療機能評価機構 EBM医療情報部 部長)
 後藤温 (横浜市立大学医学部医学科 公衆衛生学教室)
 福岡敏雄 (日本医療機能評価機構/倉敷中央病院)

■作成（50音順）：

◎今井健二郎 (国立研究開発法人 国立国際医療研究センター)
 北野敦子 (聖路加国際病院 腫瘍内科)
 清原康介 (大妻女子大学 家政学部 食物学科)
 後藤温 (横浜市立大学医学部医学科 公衆衛生学教室)
 ◎佐々木典子 (京都大学 大学院医学研究科 医療経済学分野)
 ◎佐々木八十子 (静岡社会健康医学大学院大学)
 畠山洋輔 (東邦大学医学部社会医学講座 公衆衛生学分野)
 平林慶史 (有限会社ノトコード)
 藤原崇志 (倉敷中央病院 耳鼻咽喉科・臨床研究支援センター)

※◎は本動画教材を作成した検討会委員

■査読協力：公益財団法人日本医療機能評価機構 診療ガイドライン作成支援部会